2007年JAF全日本ジムカーナ選手権第5戦

JGC rd.5

2007 Japan Gymkhana Championship

N3 class

[スピードN車両部門クラス3]
排気量1000ccを超える後輪駆動のN車両
参加12台／出走12台

山野がブッチギリのタイムで3勝目をゲット

長い直線もあるコースだけにNSXやRX-7が有利かと思われたが、公開練習では山野也エキシージSがブッチギリのタイムを叩き出し、決勝日も1本目でベストタイムをマーク。鈴鹿孝宏RX-7が0.7秒差で追う展開となったが、2本目は柴田俊作エキシージSがわずかに自己タイムを縮めてきたものの、続く寺田光宏NSX、鈴鹿はタイムダウン。最終走者の山野はウイニングランでさらに自己タイムを0.25秒縮めてゴール。3連勝と強さを見せつける。「1本目は左コーナーでガス欠症状が出たんだ。初めてのことだったけど、2本目はバッテリ対策してタイムも縮められたね。スナガワを走ったのは4年ぶりだけど、今回のコースは実が詰いというか今までにない感じだったな。タイヤも前半で使い過ぎないようにマネジメントが要求されるし、けっこう大変だったよ」

決勝タイム

1位	山野哲也	EXEDY SSC EXGE	1'36"650	
2位	鈴鹿孝宏	DL・WMシャフトBPCRX7	1'36"819	
3位	寺田光宏	EGレイズWmOGIS2NSX	1'36"880	
4位	柴田俊作	アルボーWMアドバンEXGE	1'36"757	
5位	中金 聡	エグゼ！RAYS&BPRX7	1'39"700	
6位	田原利高	EGフットワークガレージNSX	1'40"008	

シリーズポイント

順位	ドライバー	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	合計
1位	鈴鹿孝宏	8	20	12	12	15						67
2位	山野哲也	–	–	20	20	20						60
3位	柴田俊作	10	10	15	10	10						55
4位	寺田光宏	3	8	2	6	12						29
5位	大田洋一	20	–	–	4	–						24
6位	鈴野 聡	–	15	–	8	–						23

N4 class

[スピードN車両部門クラス4]
排気量1000ccを超える4輪駆動のN車両
参加12台／出走12台

茅野強し！ 開幕5連勝でチャンプに王手

1本目は荻井将文エボⅨMRが中間ベストを刻み、一方で茅野成樹エボⅨMRは中間では遅れたもののゴールタイムでは0.28秒上回ってベストタイム。このあたりにことしの茅野の強さがうかがい知れる。2本目は荻井が自己タイムを0.08秒だけ縮めてきたが、これでは茅野との差は埋めきれず、茅野は2本目タイムダウンながら1本目のタイムで逃げ切って、ついに開幕5連勝！「何があるかわからんですから、とにかく1本目に気合、精神力ともに95%は出し切っていかないと、という気持ちでした。荻井選手に迫られている強敵感もありましたし、路面もグリップ感が少しとつぐらいなかなか難しくて、こんなときこそインにピタッとつけて最低速度を、と思い続けながら走りましたわ」。これで次戦は3位でもチャンピオン確定と、いち早く4年連続タイトルに王手をかける。

決勝タイム

1位	茅野成樹	Mアーン&DLのオスターランサー	1'36"576	
2位	荻井将文	BSハート・クスコランサー	1'36"704	
3位	古谷研治	DLKimaiランサーRT	1'37"053	
4位	柴田俊一郎	デリッ子DLスノコPTランサー	1'37"756	
5位	長野将史	アドバンDAEリンドットランサー	1'38"033	
6位	内田光平	DL近畿点BSシーランサ改	1'38"642	

シリーズポイント

順位	ドライバー	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	合計
1位	茅野成樹	20	20	20	20	20						100
2位	古谷研治	15	12	15	10	12						64
3位	柴田俊一郎	10	8	8	15	10						49
4位	長野将史	2	15	10	12	8						47
5位	荻井将文	12	–	12	–	15						39
6位	内田光一	–	6	4	6	3						19

SA1 class

[スピードSA車両部門クラス1]
排気量1600cc以下の2輪駆動のSA車両
参加13台／出走13台

好調、川北が連勝でポイントでも首位に

なぜか中盤ゼッケンで出走の川北圭RX-8が、今回も1本目からイケイケのコースを攻めにつけてベストタイムをマーク。相棒ホンダ中野もこのタイムにはついていけず、2本目で川北はさらにタイムを縮めてベストを更新。最低限ーEK9、北神野浩EK9が迫ったものの及ばず、川北の圧勝でSUGOに続いて2連勝を果たす。これで一気にポイントリーダーに躍り出る。「去年は土曜の練習でタイヤを熱り減らし過ぎて後悔したので、今回は本番用を温存して勝負しました。2本目は挑戦に行ったんですがタイムを縮められました。今回のコースはアクセルを強く踏む場所が少なかったせいか、エイトの本領を発揮できたようです。ことしは2本目にいかにタイム縮めるか、が課題でしたが、シリーズ後半に向けてここで答えを出せました」。ことし後半戦もSA1は激戦となりそうだ。

決勝タイム

1位	川北 圭	オートバックス DL FX8	1'40"030	
2位	北神野浩	AZUR リジット DL DR7Ti	1'40"090	
3位	中野秀治	BSエナイタル高月シビック	1'41"709	
4位	山崎高広	A/Lエクゼ鈴鹿PFBS8CR	1'41"816	
5位	森田俊介	エグゼスポーツもりもりGRX	1'42"475	
6位	西野味平	BSもりキャんLEDシビック	1'42"830	

シリーズポイント

順位	ドライバー	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	合計
1位	川北 圭	6	15	–	20	20					61
2位	北神野浩	1	20	8	15	12					56
3位	鈴鹿孝宏	–	10	15	12	15					52
4位	北神野浩	15	–	20	8	3					46
5位	西野味平	20	3	10	6	6					45
6位	森田俊介	3	12	12	2	8					37

SA3 class

[スピードSA車両部門クラス3]
4輪駆動のSA車両
参加20台／出走0台

前戦のリベンジ、西原が渾身の走りで圧勝

前戦SUGOでは、ベストタイムながら競輪決定にないた西原正哲エボⅨMRが、1本目からベストタイムをマーク。それを津川信次エボⅨMRが0.13秒差で追う展開となるが、2本目はその津川が大幅にタイムダウン。ディフェンディング・チャンピオンの川脇一見エボⅨMRも自己タイムを縮めてきたものの、3番手がやっと定位置は保ちます。2本目もさらに自己タイムを0.3秒近く縮めてきた西原が、他を寄せつけず完全優勝。前戦のリベンジを果たす。「2本目はタイムを縮めるのがキツそうで、いっても0.1秒かなと思っていたけど、0.3秒縮められたのは上出来。ドライバーを褒めてあげないと（笑）。路面温度は予想以上に上がったけどRE55SのWTSは最後までしっかりついてきてくれたよ」。これで今季3勝とポイントでもやや2番手を引き離し、タイトル争いをリードする。

決勝タイム

1位	西原正哲	TSDHKS8SSランサー	1'37"688	
2位	津川信次	DL.pWMSLRGランサーWR	1'37"899	
3位	川脇一見	グンロップチャレンジランサー	1'38"428	
4位	天津 浩	MDFWSSSスコランサー	1'38"672	
5位	井上賢二	DL北人グラムラインランサー	1'39"029	
6位	安原三義	WinneDLMKランサー	1'40"900	

シリーズポイント

順位	ドライバー	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	合計
1位	西原正哲	12	20	20	12	20					84
2位	天津 浩	15	15	10	20	10					70
3位	川脇一見	20	8	15	10	12					65
4位	津川信次	10	10	12	15	15					62
5位	長谷川浩	–	12	8	8	–					28
6位	井上賢二	6	6	–	6	6					24

2007年JAF全日本ジムカーナ選手権第4戦

JGC rd.4

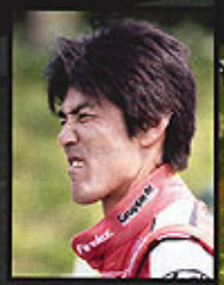
2007 Japan Gymkhana Championship

JGC rd.4/SA3 class 5th

JGC rd.4/SA3 class 6th

05年からSA3クラスに参戦し、今シーズンは昨年の川脇のマシンを譲り受けて上位を狙う。井上M二エボX。今だにも成に食いつく。

今シーズンもフル参戦は見合わせているが、出れば上位4人に食いつく走りを見せる西田秀也。決勝を迎えても、その走りは一切ぶれず。



2本目は初のベストタイムに続いた西原正哲。1本目のタイムで3位ながら、絶対のいない状態判定に、表彰は近い。

JGC rd.4/SA3 class 3rd

SA3 class

[スピードSA車両部門クラス3]
4輪駆動のSA車両
参加20台／出走0台

順位	ドライバー											合計
1位	西原正哲	12	20	20	12	20						84
2位	天津 浩	15	15	10	20	10						70
3位	川脇一見	20	8	15	10	12						65
4位	津川信次	10	10	12	15	15						62
5位	長谷川浩	–	12	8	8	–						28
6位	井上賢二	6	6	–	6	6						24

JGC rd.4/SA3 class 4th

開幕戦を制しながら、その後は今ひとつリズムに乗り切れない川脇一見。公開練習では常にトップながら、決勝で出てない状況が続く。

りに不満だった様子。川脇は、「最後のターンを大きく回り過ぎてしもうた。あそこでタイムロスや」と振り返る。3番手の津川は、「1コーナーを2速でいってドリフト状態、けっこうロスしました」と上位3人とも2本目に賭ける。

2本目は天候は回復したが風は強く、路面温度は40℃程度とあまり上がらない。一方で、ラバーの付いた路面をSA3の強豪たちがどう攻めるか注目されたが、予想外の波瀾の展開となる。1本目はパイロンタッチで後退していた森田が順当にタイムを縮め、続く津川がタイムアップして西原のベストタイムを更新。一方で川脇はわずかにタイムを落とし、続く天滿は、「どこで他の選手より遅れているのか、よくわからんかった」と、1本目が終わった後に語っていたが、ここで入賞一郎、津川のタイムを上回ってベストタイムを塗り替えてくる。すでにスタートしていた最終走者の西原のゴールタイムは、天滿をさらに0・2秒近く上回っていたが、まさかの脱輪判定。その瞬間、天滿の実に1年半ぶりの全日本優勝が決まる。

「1本目は4番やったけど僅差やし、頑張ればいけるんやないかという気持ちはありました。2本目は津川選手のタイムを聞いて『こりゃ絶対しっかり走らんと』という気持ちでスタートして、前半はちょっと遅れた感じもあったけど、最後の360度ターンで取り戻せたんやないかと思う。タイヤに関しては、今回はタイプWTSがバッチリ当たった感じやな」

こう語る天滿は、2001年～02年にA4クラス2年連続チャンピオン、05年はSA3チャンピオンを獲得しながら、昨年は1勝もできなかった。ことしもなかなか勝てなかったが、「何となくリズムに乗れてなくて、実はまだサスのセッティングに悩んでる部分もあるんや。でも、津川がSA3に来てライバルは増えたけど戦いは盛り上がってきたし、4～5人での接戦でおもろうなってきたな」

一方でトップタイムを叩き出しながら、脱輪判定で3位に終わった西原は、「走り終わってから主催者に脱輪場所を確認したけど、そこでタイヤを落とした覚えもないし、そもそもタイヤが落ちるようなところやない。でも審判の判定は絶対やからなぁ」と、無念ながら次戦のリベンジに賭ける。そして2位の津川は、「大きい失敗はないけど、ちょこちょこミスしてますし、2本目もゴールしたときは『このタイムでは抜かれる』と思いました。4WDの勝負はホントに難しいですが、SA車両になってさらに難しくなったと感じます」

文句なく全日本トップクラスのウデを持つ津川だが、4WDに関してはまだ3年目。自己のドライビング分析は疑く、毎回必ず上位にくるあたりはさすが。だが、上位のカベは厚く、なかなか表彰台の中央には立てない。

そしてディフェンディング・チャンピオン川脇は、今回4位に甘んじる。「クルマに乗り切れてない感じで、リズムが合わないんですわ。公開練習での手応えは悪くないんですが、本番でタイムが出ん状態で……。何とかせにゃあかんですな」

今回もトップ天滿と4位川脇との差は0・34秒。ワンミスで0・2秒遅れただけで、一気に表彰台から引きずり降ろされる世界であり、そのシビアさはかつてのA4の戦いを思い出させる。選手は大変かもしれないが、最後まで誰が勝つか分からない戦いは、まさに全日本ジムカーナの華。クルマも乗り手も強豪同士の戦いは、シリーズ後半でもたっぷり「見せて」くれるはずだ。